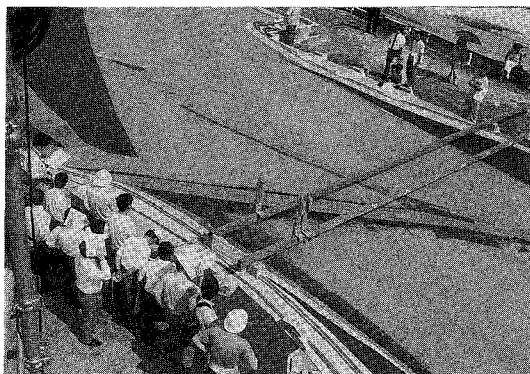




右岸（南岸）堤防に衝突する水流の向きから堰直下流が水衝部となっている状況。

成3年から建設事業に着手したものである。

現在建設省では地域の意見を集約することを目的とした「第十堰建設事業審議委員会」を開催しているが、一般の方々にはわかりにくいという声がある複雑な洪水現象を水理模型によって再現し、適正に理解してもらうことを目的に実験を公開した。

模型は80分の1の縮尺で長さ90m、幅10mで堰上流の水位及び堰直下流の洗掘深を、再現出来るよう工夫した移動床の水理模型実験施設である。8月31日は猛暑の中、マスコミや一般見学者約230人が見守る中、実験を行った。実験では、堰上げや堰直下の異常な深掘れ現象が、流量に応じて変化する堰周辺の複雑な洪水現象や、堰上げや深掘れの発生メカニズムが再現された。

（建設省徳島工事事務所 開発調査課 松尾 裕治）

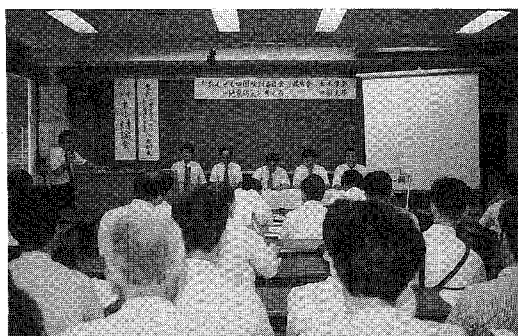
「あんぜん四国検討委員会」 —地震防災を考える— 報告会開催

平成8年7月31日徳島大学工学部において「あんぜん四国検討委員会」報告会が100余名の参加者のもとで開催された。土木学会四国支部では、建設省四国地方建設局の依頼により、四国における公共施設の耐震性や地震防災のあり方等について検討することを目的とし、「あんぜん四国検討委員会」を設置し調査・検討を行っている。この

委員会は、八木則男愛媛大学工学部教授を委員長とし、四国の大学等の学識経験者、各県の土木部長、四国地建の担当官、土木関連会社等の25名から構成され、地震発生から施設防災に至るまで、異なった専門分野で検討・総合する必要があるため、地震動・構造物部会、地盤部会、地質部会、防災行政部会、歴史部会の5つの専門部会を設けている。調査期間は平成7、8年度で、本報告会では歴史部会を除いた4つの専門部会で、平成7年度に得られた成果について、次のような演題で報告が行われた。

- ・四国における活断層研究の現状と課題：（株）四国総合研究所副主任研究員・長谷川修一
- ・地震動の予測と橋梁災害：徳島大学工学部教授 澤田 勉
- ・四国の県庁所在地における沖積地盤の液状化について：高知大学農学部助教授 小椋 正澄
- ・社会資本整備と地震防災対策：建設省地方建設局企画調査官 山中 義之

報告に引き続き、八木教授を座長とし、4専門部会の講演者がパネラーとなり、パネル討論会が行われた。フロアーから、南海地震による津波に関する質問、1000年に1回発生するような地震に対しても壊れない構造物を作るのか、地震による危険箇所をはっきり示して不安感をもたせることにより真剣に防災対策に取り組むようになる、阪神大震災以降いろいろな報告会が行われているが、一般の人でもよくわかるもっとかみ砕いた草の根的な講演会により防災意識を啓蒙する必要がある等の様々な質問・意見等があり、活発な議論が行われ、予定の時間をかなりオーバーした。その後



行われた懇親会では、報告会の出席者の半数以上の約 60 名が出席し、こちらも予定の時間をオーバーするほど話題が盛り上がり、懇親を深めた。

(阿南高専建設システム工学科 島田富美男)

「首都圏水サミット」 開催される

水の貴重さや水資源の重要性に対する国民の関心を高め、理解を深めることを目的として「水の日」、「水の週間」が昭和 52 年に定められて以来、今年、20 年目を迎えた。首都圏においては、これまで、増大する需要等に対処するため、「利根川水系及び荒川水系における水資源開発基本計画」等に基づき、ダムなど水資源開発施設の建設等が着実に進められてきた。

しかしながら、首都圏への人口や経済活動の極集中は続き、現在では、国土面積のわずか 10% の圏域に総人口の 32% にあたる 4 千万人が居住し、世界に類を見ない居住地域を形成するに至っている。こうした人口の増大やライフスタイルの変化に伴い、水に対する需要は依然として増大しており、関係者の努力にもかかわらず、水に関する様々な課題はなお十分な解決を見ていない。

また、地下水の過剰採取に伴う地盤沈下が進行している地域もなお存在しているほか、河川、湖沼の水質は、かなり改善されてきたものの、特に下流域では依然良好とはいえない状況にある。一方、安全でおいしい水に対する国民の志向の高まりにも対応していくことが求められている。

「首都圏水サミット」は、このような状況のもと、関係行政機関（国土庁、環境庁、厚生省、農林水産省、建設省）及び首都圏の 1 都 7 県の知事等の高いレベルの責任者が一同に会し、「良質な水の安定的確保を目指して」というテーマのもとで、首都圏の飲み水をめぐる様々な課題について素直な意見交換を行うことにより、国、地方公共団体が一体となった取り組みの一層の推進を図ることを目的として、8 月 29 日東京都赤坂プリンスホ



テルにおいて開催された。

会議は、高橋裕東京大学名誉教授の進行により進められ、① 水資源開発の着実な進行と水源地对策、森林保全の必要性、② 水が有限な資源であるとの認識をもち、節水や下水再生水等の有効利用の必要性、③ 流域全体での水質保全の努力の必要性、④ 上流地域と下流地域の相互の理解と共通の認識をもち、交流を深めることの重要性等が話し合われた。

水を巡るこうした取り組みは、一省庁、一都県のみでは十分な成果を上げることは困難であり、多くの省庁が、また、上流、下流の各地域が共同で実施する必要がある、今後関係機関が緊密な情報交換、意見交換を行う会議を設けることになった。

(国土庁水資源計画課長 上阪 恒雄)

第 2 回コンクリート カヌー大会開催

昨年好評を博したコンクリートカヌー大会が今年も荒川の彩湖を会場として、夏休み最後の 8 月 31 日（土）に土木学会関東支部主催、建設省関東地方建設局後援で開催された。

会場となった彩湖（荒川調節地）は埼玉県戸田市の荒川秋ヶ瀬公園の一角にあり、治水、利水を目的としたものだが周辺環境ともマッチし景観的にも優れた施設である。今回も前回と同様、水面